

DO YOUR BEST

NO. 194

2018.10発行

一般社団法人
福島県介護福祉士会
文責 小山田 米子

介護福祉士

【9月・10月のファーストステップに参加して】

県中方部 渡邊 晴美

9月は、しらかわ介護福祉専門学校校長・千葉喜弘様による【家族や地域の支援力の強化と活用】、10月は特別養護老人ホーム寿恵園施設長・菅原俊博様による【他職種連携の実践的展開】という内容の研修を実施した。

【家族や地域の支援力の強化と活用】についての内容は、家族介護者の心理や、ニーズを理解し、支援していくことがまず根底にあるということだった。在宅生活者・介護者を支えていくためにはまず、その方々の住んでいる地域を理解し、そこでフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用し、地域包括支援ケアサービスを確立させなければならないという内容だった。また、家族と介護されている方の意見が食い違うときの対応・サポート・支援方法について学んだ。その際、具体的なアプローチ技法についても学び、実際シミュレーションし、難しさを実感できた。

【他職種連携の実践的展開】についての内容は、業務・介護事故について改善や事故防止策を考えるにあたって、SWOT分析やSHEELモデルを活用し、他職種で分析していく必要性を学んだ。これは、それぞれの職場で活用できる分析方法であった。また改めて、事故対応の基本は誠実に・速やかに報告することであり、お詫びの気持ちを率直に表すことは自分の職場に対する信頼感につながるということを確認できた。そして、ミスやトラブルは誰だってあるということを念頭に置き、解決に向けるためには、上司や他職種・施設全体が、部下がスムーズに報告や相談ができる雰囲気づくりが重要であることも学んだ。

ファーストステップ研修は、来年3月まで計15回の長期にわたる研修であるが、自分達の介護について基本を見つめなおす良い機会となっている。また、具体的なアプローチ技法についても学ぶことができ、現場で活用できる内容のものも多く、とても勉強になっている。11月の研修で折り返し地点となるが、現場の状況も織り交ぜて想像しながら研修に臨み、少しでも現場で活用・指導していきたい。



FUKUSHIMA



一般社団法人 福島県介護福祉士会

〒963-0108 福島県郡山市笹川一丁目184-29 クレストハイツ184 102号室

FAX 024-943-1848 E-Mail jaccw_fukushima@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www7b.ne.jp/~jaccw-fukushima/>

【健康・長寿いきいき県民フェスティバル】

県中方部 小林 広子

10月8日(日)郡山市のビックパレットで、健康・長寿いきいき県民フェスティバルが開催されました。午前中は、社会参加と介護予防に取り組むグループに対する表彰とその実践報告・体操の披露がありました。またホールでは医療、介護等各団体が健康・長寿に関する相談やイベントを行っていました。介護福祉士会ではInBody体験ハンドマッサージを行い、数多くの方の来場がありました。

午後には「健康長寿日本一を目指して ～食・運動・社会参加が大切～」をテーマに鎌田實先生の講演会があり、分かりやすく笑いを交えながら、先生の体験をもとに長野県が3大死因別死亡率の最も低い県になる為の取り組みについての話がありました。講演の中で、フレイルにならない為に筋肉強化し、歌やおしゃべりをして口腔フレイルにならない、そして閉じこまらないことで社会的フレイルにならないようにとの話が印象に残りました。野菜と肉などのたんぱく質を摂り、スクワットやかかと落としで筋肉・骨を強くし、社会参加し人の為に美しく生きることをすすめていました。



【新任介護職員研修事業】

スプリングガーデンあさかにて、10月～12月の3回にかけ採用1年以内の職員を対象に移乗・移動の基本、体の使い方、倫理や接遇について、介護福祉士会様より講師の派遣を受けて研修を実施することになりました。第1回目は、松本先生により移動・移乗の基本、体の使い方について指導を受けました。参加した8名の職員は「改めてボディメカニクスの大変さを知った。今までのやり方は腰に負担をかけてやっていた。手だけの介助だった。重心移動を考えて腰に負担を掛けないように、入居者様にやさしい介護を心がけてやりたい。」との感想が聞かれ、12月の松本先生の研修までに教えて頂いたことを実践できるようにしようと意気込んでいます。11月は関根先生により、倫理・接遇に関する研修を予定しています。今年で3年連続し講師の派遣をしていただいています。実際に介護の仕事をし、経験豊富な方々に指導を受けることができ、内部研修にはない有意義な研修を行うことができます。





【リレーフォーライフ・ジャパン 2018】

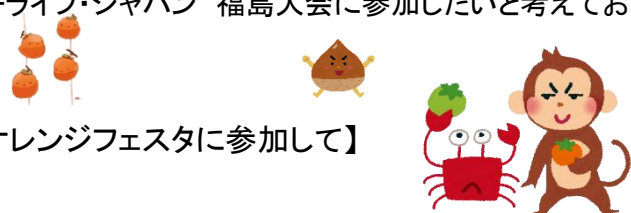
県北方部 佐藤 進也

平成30年8月25・26日両日にわたり、リレーフォーライフ・ジャパン 2018福島大会があづま総合体育館で盛大に行われました。

昨年よりも早い時期での開催になり、多くの職能団体・NPO法人・ボランティア団体の方々が参加をされ、介護福祉士会県北支部も多くの事業所から、参加をして頂き、毎年有意義な大会となっております。参加者は約30名。それぞれの時間帯で参加者を募り、介護福祉士会のフラッグをスタートからゴールまで振り続けました。

参加者は各々でやり遂げた充実感と達成感で満足のいく参加になったのではないかと思います。

リレーフォーライフが開催される趣旨・目的を理解し、来年も盛大に開催されるリレーフォーライフ・ジャパン 福島大会に参加したいと考えております。



【第3回ふくふくオレンジフェスタに参加して】

県北方部 島貫 圭介

平成30年9月24日(月)、福島市のMaxふくしま4階AOZ(アオウゼ)において、認知症啓発イベント「第3回ふくふくオレンジフェスタ」が開催され、福島県介護福祉士会県北方部として参加しました。

今回は、体成分分析が行える「InBody」体験と「高齢者疑似体験」の2つを準備し、来場された方々に体験していただきました。



InBody体験は、来場された皆様に好評で、延70名が体験されました。体験された方の多くは、ご年配の方がほとんどで、皆さん一度は測定されたことがあるとのこと、普段から運動や食事に気を付けていると話されていました。体験後、測定結果をもとに簡単なアドバイスを行い、皆さん真剣に聞いてくださいました。高齢者疑似体験は、若年層の方に多く体験していただきました。

前回よりブースを出して参加する団体が多く、医療関係、福祉関係の事業所の方や専門職団体も参加しており、意見を交換することもできました。今後もこのような機会があれば参加して「介護福祉士会」の認知度を上げるよう活動したいと思います。



【平成30年度 北海道・東北ブロック大会に参加して】

県中方部 渡辺富士子

9月21日～22日の二日間に渡り、青森県青森市安方にあります、ねぶたの家ワ・ラッセにて「新時代における介護福祉士の人材と未来」というテーマで開催されました。110名の参加があり、福島県からは、3名参加しました。

1日目の基調講演は、厚生労働省の谷内一夫氏より「介護人材確保対策」について①介護職員の処遇改善②多様な人材の確保・育成③離職防止・定着促進・生産性向上④介護職の魅力向上⑤外国人人材の受入環境整備など総合的な取り組みや「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について話がありました。続いて記念講演は、メディカルケアサービス(株)の杉本浩司氏より「介護の未来を『カッコいい』に変える～介護の魅力と憧れの職業になるために～」という興味深い演題でした。介護はその人の当たり前の生活を取り戻す仕事であり、幸せをプレゼントすることができる仕事である。その人の「今の夢」を引き出し叶えることにより生きることにより生きることに欲がでる。そして私たちの毎日の業務の繰り返しも、その夢を叶える為の意味あるものになり、チームで同じ目的を持ち行動し、結果を出し、改善していくことが自信となり、さらに次の行動を起こすことにつながる。まずは、何かを思ったら、行動を起こすことが大事との話がありました。

2日目のシンポジウムは、「介護職員のモチベーションを引き出すためには」というテーマで特老「瑞光園」の沢田章氏・訪問介護事業所「ハッピーIWAKI」高山恭平氏・青森県の「星短期大学」丸本富勝氏から、それぞれ発表がありました。魅力ある介護の職場のためには「介護の質」が不可欠で、やるべきことをきちんと行い、してはいけないことをしない。そして、介護士のやるべき、求めるべき方向性を見失わず、まずは、私達介護福祉士がプライドを持ち、介護の意味・意義を伝えていくことが大切であることを学びました。

私が働いている法人では、実習生の受け入れは既に行われており、私も介護職として携わる事はあり、なんとなく実習生を教えるのはわかっているつもりでいました。しかし、今回実習指導者として研修を受けてみて、まだまだ学ぶ必要があると感じました。新人教育にも繋がるスーパービジョンについてや、自分が学生で実習を受けた時の気持ちにさかのぼり、自分だったらどうして欲しかったかを考えてみて関わるなど、ただ漠然と優しくすればいいのではなく、一つひとつの関わり方にも学生のモチベーションをあげる技法を学ぶ事ができました。また、実際に教える時にも、ただ、やらせるのではなく、エビデンスを伝えながら介護技術を伝えていく大切さを実感しました。その為には私も実習生に負けないくらい一生勉強だと思いました。

今、介護を志す若者がかなり減っており、我が母校の専門学校も私がいた頃の4分の1程度にまで減ってしまいました。今まで以上に若者に魅力を伝えられるよう、実習指導者として、また、介護福祉士会としても発信していきたいです。久しぶりに会社以外の同業者と学び、語り合い、素敵な先生方と出会い、良い刺激になりました。ありがとうございました。



【倫理委員会より】

倫理についての事例（80代男性Bさん）

現在一人暮らしで訪問介護を利用しているBさんは長年教職についていました。定年してからは自宅で、要介護4の認定を受けている妻の介護をしていました。自身の加齢に伴い妻の介護にも負担が出たため、現在妻は施設に長期入所されています。その後Bさん自身も脳梗塞を発症し、要介護度2の認定を受けました。脳梗塞の後遺症と下肢筋力の低下の為、歩行にふらつきがみられますが、ヘルパーの支援を受けながらなんとか独居生活を送っています。自宅では居間に電動ベッドと、脚の長いこたつテーブルを使用して生活していました。テーブルは購入してから年数が経過しぐらつきがみられ、転倒の危険がありました。ある日入社2年目のヘルパーA子がBさん宅に訪問した時の事です。Bさん宅のテーブルがぐらつき危ないのと、以前より思っていました。その為、A子はBさんの事を思い「うちの父が工務店を営んでいる為修理しましょうか？」と聞いてみました。Bさんも困っていたこともあり、A子の父に修理を依頼することになりました。

後日、別のヘルパーが訪問した際にBさんから、テーブルを修理したという話がありました。「修理したらだいぶ金がかかってしまった…頼んどいて断るのも気まずくなるしな…」と修理代が想定外であった事などを話していた為、事業所の管理者に報告しました。その後、担当ケアマネージャー、県外に住むご家族（長女）が修理した事を知りました。その後A子から事情を確認し、各関係者で相談するという事がありました。

このケースではどこに問題があり、どのような対応が必要だったのでしょうか？事業所として職員の指導マニュアルや、対応を確認しておくことが必要だと感じました。皆さんはどのようにお感じになりましたでしょうか？



知られざる隠れ秘湯（県南編）

甲子温泉「大黒屋」

秘湯を守る会で人気と聞いて、訪れてみました。

6種類の内湯や露天風呂の中でお勧めしたいのが、「大岩風呂」と「恵比寿の湯」です。

160年の歴史を持つ大浴場「大岩風呂」は、大きな岩盤をくり抜いて造られた縦5m、横15m、深さ最大で1.2mの大きな湯舟でした。混浴となっていますが、女性専用の時間帯もあります。「大岩風呂」に行くためには、館内から100段の階段を降り外橋を渡る必要がありますが、それがまた、風情があり秘湯らしさを感じました。

露天風呂の「恵比寿の湯」は、甲子の大自然をたっぷり満喫することができます。初夏に訪れたため新緑が太陽に照らされとても綺麗な風景を眺めながら、日常の喧騒を忘れ、ゆっくりとした時間を過ごすことが出来ました。紅葉の時期に、また来たいと思いました。

冬の雪見露天風呂もお勧めとのことでしたが、雪深い山奥のため、新白河駅からの送迎車を利用するか、春が近くなった残雪の頃が良さそうです。今回は、日帰り入浴700円（安い！）を利用しましたが、次回は泊まりで、ゆっくり来たいです。秘湯を守る会でも人気が高く、リピーターも多いとのことでしたが、納得！



編集後記

秋風が心地よい時節となりました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？秋は実りの秋と言われますね。沢山の作物がでし食卓には色とりどりの料理がテーブルに並んでいるのではないのでしょうか？私たちの仕事は健康第一ですね。美味しい物を沢山頂いて、また、明日の活力にしていきたいと思います。